

ハバロフスクで始まった森林認証の取り組み

アンドレイ・ザハレンコフ / 森林認証センター代表

ロシア極東地域の森林は、地球規模の気候の安定や炭素のバランスの維持に対して、大きな役割を果たしています。ロシア極東の森林には、木材・非木材林産物があります。この地方では森林が、絶滅の危機にひんする動物、シベリアトラやアムールヒョウ、ゴールルのような希少動物の生息する場所ともなっています。生物多様性が特に高い動植物相は、ロシア極東の南部にみられます。そのため、極東地域の森林と、その生物多様性を保護することは、ロシアのみならず世界にとって、大きな課題とすることができるでしょう。

この課題を解決するために、森林とその生物多様性に対する現実の脅威について、はっきりした認識と、問題解決の方法を見つけることが必要です。ロシア極東の森林の生物多様性に対する脅威は、いずれも二つの種類に分けることができます。自然の脅威と人的脅威です。人的脅威のうち、最も影響が大きいののは、森林管理や林業技術のあり方によって生じる脅威です。自然脅威の中で最も深刻であるのは、大規模森林火災です。森林火災の発生と森林経営の問題にもつながりがあります。森林管理と利用に関するシステムが不完全であるため、生物多様性だけでなく、資源としての森林が脅威にさらされます。

森林管理・利用に関する行政の構造

まず、政府と関わっている森林管理と森林利用システムの部分を検討しましょう。この部分では、次の問題が明らかになっています。

現行法の不備：森林管理と森林利用の技術的な基準に関する基盤が不完全であること
森林資源の保護と回復のための法権利と財務の構造が不完全です。そのほか、森林資源への保障された持続的な森林利用許可が、ほとんどありません。その結果、不安定な短期の森林利用が続いています。

実際の森林利用者にとって不適切で、生物多様性を評価できない、森林資源調査システムの弱さ

森林経営で独占者である国営企業の間競争がないことと、営林署の弱体化のため、森林資源調査の仕事の質が低下しています。森林管理業務のミスの割合は50パーセントを超える時もあります。このミスは森林利用計画に入ってくるため、伐採方法の指定が不適切になったり、生産性が低下したり、森林利用が不安定になったりしています。

営林署による実際の管理と保護が不十分で、違法伐採に対する取りしまりの有効性が低いこと

プーチン大統領の改革によって、森林利用を管理するシステムが弱体化しました。そして経済危機と利潤追求の強まりによって森林利用者と違法伐採者の起こす違法行為がさらに深刻化します。つい最近までは割り当てられていた連邦政府による営林署への予算は規模が小さかったため、集約的・効果的な森林管理はできませんでした。極東地域では、森林経営のための連邦政府予算は著しく不足していました。たとえば、1999年にハバロフスク地方の営林署に割り当てられた予算は、森林管理に必要な額の18パーセントでしかありませんでした。

予算が不足しているため、営林署はみずからの利益のことを考え始めます。営林署が利益の追求に興味を持ち始めると、営林署の果たすべき本来の役割が果たされなくなってしまいます。例えば収入を得ようとしている営林署は、罰金システムを考えました。森林利用者に故意に森林を扱う条件を押し付け、違反を起こさせるのです。そうして罰金を取る機会を作り出すのです。例えば、営林署が、若い木の生えている森林での皆伐を伐採業者に指示することがありました。その業者がそこで皆伐を行った結果、若い木が破壊されました。択伐などの伐採方法を指示すればそのような問題は起きずに済みますが、それでは営林署が罰金をとれないというわけです。

最近、連邦森林管理局が廃止されたため、営林署への国からの予算がなくなりました。しかし、伐採許可を出す仕事や森林を利用に関わる役目はそのまま残っています。ソ連崩壊後の国营森林経営システムにこうした問題が起きているため、森林資源利用に深刻なひずみが生じています。

極東における森林利用は経済サイクルの一部であり、その結果、1970年代半ばまでに、森林資源の基盤がひどく変形しました。現在、二次林が多く残っていますので、森林利用の方法と技術に変化が要求されています。そして、森林利用者にも伐採の質と技術レベルを向上させることが必要です。現在の伐採技術レベルはソ連が崩壊した前のレベルと比較しても非常に低いものです。民営化の初期の段階では、木材加工の減少 営林署の破綻 営林署の活動が野放しになる - などの問題が起きました。

規模の小さい企業は普通、安定した森林利用（道路工事や森林火災防止や森林回復のための活動など）のための予算の基盤がありません。そのために中小企業は伐採地にすでにあるインフラをもとに活動しています。こういった伐採地は何回も利用されることになり、伐採期間の違反の繰り返しは森林劣化の原因となります。しかも、中小企業には技能の高い人材が不足しています。小さな企業だけでなく、大企業もそうです。極東では専門家の技能の向上システムがほとんどありません。

認証制度の必要性

過去の例を見ると、この危機的状態の改善には、政府による指示だけでは不十分です。市場メカニズムと刺激が必要です。その一つが森林認証です。ロシア極東地域の林産物

の主要な消費者である、日本や中国の市場の動向が、世界の木材貿易のあり方に影響を及ぼします。この考えに基づき、ハバロフスク地方では、森林経営・利用の安定化のための自主的な認証制度づくりが最も緊急性の高い課題である認められました。1998年、天然資源局のポチャーリン部長の司会で開かれた発起人会では自主的な認証制度づくりのためのプロセスが以下のように決まりました。

自主的な認証を行う委員会の設置
安定した森林経営と自主的な認証基準・指標の開発
自主的な認証センターの設立と安定した森林経営方法のための教育プログラムの作成
自主的な監査として試験的な認証の実施
成功事例の普及

1998年8月、ハバロフスクにおいてセミナーが開かれました。このセミナーのテーマは「ハバロフスク地方における森林経営の安定のための課題と自主的な国際認証」でした。森林利用と森林保護に関係のある多くの企業が参加しました。セミナーの決議では、経済、社会、環境などの要求にこたえる自主的な森林認証システムの開発が急務の課題であることが合意されました。特に、ハバロフスク地方ではFSC（Forest Stewardship Council：森林管理協議会）システムに従って認証を行うべきだと判断されました。

現在、自主的な認証のプロセスはハバロフスク地方だけではなく、沿海地方でも発展しています。このプロセスの基本的な推進力になったのが森林認証センター（Forest Certification Center：LESSCENTR）です。森林認証センターは1999年12月7日に設立されました。ハバロフスク野生生物ファンド（Khabarovsk Wildlife Fund）、ロシア極東非木材林産物利用協会（Far East Association for the Use of Non-Timber Forest Products）、極東森林・林業研究所（Far East Forestry Institute：DALNIIILH）、エコダル（Ekodal）などロシア極東のおもだったNGOや研究機関がセンターの設立者です。センターの設立にあたっては、ハバロフスク地方行政機関およびWWFロシアから支援を受けました。

経済と環境の面で持続的な森林利用方法の改善と自主的な認証制度づくりが森林認証センターの基本的な課題であります。この課題を実現するには認証センターは次のテーマを選んで、活動をしています。

- 認証の準備を行うために木材調達をしている企業にコンサルティングのサービスを行う
- 森林コンプレックスに入っている企業の活動の監査を行う
- 自主的な森林認証を行う
- 「極東の森林における安定した森林経営・利用」というコースのプログラムに従って、伐採企業や営林署のスタッフのために教育と実習を行う

- 安定した森林利用と自主的な森林認証の分野に関係ある研究の活動に参加する

森林認証センターの活動

森林認証センターは非営利団体であり、地方のリーダー格の組織や極東の研究者・専門家がメンバーになっています。センターの最高意思決定機関は委員会で、委員長は私、アンドレイ・ザハレンコフです。現在、私達のセンターには三つの部があります。

エフレーモフ・ドミトリが部長を務める、コンサルティングと森林認証と環境監査部は次の業務を行っています。

自主的な認証を行う準備のための、伐採企業へのコンサルティング
現場監査
FSC のシステムに従った認証の基準の改善と策定

教育と専門家の養成部の部長はコバリョフ・アレクサンドルです。「極東の森林における安定した森林経営・利用」というプログラムに従って伐採企業の専門家と営林署のスタッフのための講座を行います。伐採企業が安定した森林利用方法と伐採技術の実習を行うためのデモンストレーションサイト 40 ヶ所があります。

森林利用・管理
森林再生・造林
針広混交林における持続可能な森林経営
商業林地における

実習プログラムのほかに、各企業への専門家の教育とコンサルティングの出張サービスを行っています。

シェフツォフ・ニコライが部長である情報分析部は、持続可能な森林経営・利用や自主的な森林認証制度づくりなどの問題についての情報収集・分析・普及を担当しています。ニュースレターやプレス・リリースの発行を行い、マスメディアへの広報、そして、自主的な森林認証制度づくりに関心を示す国際組織とのやりとりもこの部の担当です。

極東の林産企業が森林利用方法の改善と自主的認証制度づくりに参加するために、森林認証センターが非公式な集まり「責任のある森林利用者クラブ」を作りました。現在、8 つの企業がそのクラブのメンバーになっていて、そのうちのひとつ、テルネイレス（Ternei les）株式会社は FSC のシステムに従って認証の準備を進めています。

森林認証センターにはスタッフは 17 名おります。うち、4 名が博士号を持ち、8 名が修士号を持っています。毎年、センターのスタッフが自らの技能の向上をします。2000

年には3名のスタッフがISO14012（環境監査人の資格要件）に従って環境監査の講座を受け、環境監査人の証明をもらいました。センターは環境監査と教育活動を行うためのライセンスを持ち、FSCシステムに従った認証を行う機関になるための認定を受ける計画を進めています。

日露間の協力の可能性

ロシアの極東における環境的に持続可能な森林利用に興味をもっている日本の企業や協会や財団などと協力を望んでいます。その協力の可能な方向性を考えてみました。

林産物市場の動向についての情報交換

認証された林産物のPR

自主的な認証プロセスに参加しているロシア側林産物輸出業者と日本側輸入業者へのPR

環境保護に関心を持つ、関係のある日露双方の企業の協同会議

森林認証センターの支援

日本人を対象とした極東ロシアでのエコツアー

日本の企業とマスメディアには次のようなことを期待しています。

一見無限に見える極東ロシアとシベリアの森林は実は無限とは言えない。タイガは様々な野生動物の暮らす場所でもあることなどを日本人たちに伝えること。

消費者が、認証された商品を選ぶことができるよう、世論の形成を図ること。

木材を買う時に、持続可能な森林管理・利用を考えることが、ロシア極東の森林保全を支えていることを伝えること。